

令和4年度 小平市立花小金井南中学校  
第44回 卒業式 別れのことは

【代表生徒1人目パート】

覚えていますか。新型コロナウイルスのための緊急事態宣言が発令された日、これから始まる学校生活へ、私たちは期待以上の不安を胸に青空の下で入学式を迎えた。

休校。クラスメイトの顔も名前も知らないままの中学校生活が始まった。

分散登校、動画での自己紹介、ソーシャルディスタンス。距離をとりながらも、そこには少しずつ心を近づけた私たちがいた。当たり前が当たり前ではなくなり、縮小された運動会ミナミピック。曲を決め、練習を始めたところで中止になった合唱コンクール。また中止になるかもと覚悟しながら無事に開催された川越校外学習。

縮小、中止により、諦めなければならなかったこと、諦めきれなかったこと、心の中にしまいきれず、私たちはそれぞれ、マスクの下にどんな表情を隠してきただろうか。

それでも、だからこそ、私たちは希望を追い続け、限られた部活動や学校行事にできる限りの気持ちを繋いで過ごした。

世界の歴史に刻まれた感染症の始まりとともに、新しい時代に向けて、新しい日常を生み出しながら、誰も経験したことのない私たちの中学校生活は始まった。

【代表生徒2人目パート】

休校が明けた6月。部活動の仮入部と委員会活動が始まった。なにも分からない僕たちに優しく丁寧に説明してくれた先輩、黙々と背中中で教えてくれた先輩。僕たちが先輩を意識し、目指すべき高い目標となった瞬間だった。

2年生となり部活でも委員会でも中心として活動するようになった。後輩が入学し、自分達が学校の中心であり、先輩であるということを感じた。

最高学年となり、いつも前を走っていた3年生の代わりということへの大きな不安と責任を抱えながら進んでいった。「コロナだからできない」ではなく「今しかできないことを探そう」という言葉が自然と僕たちの合言葉となった。

また部活動ではそれぞれの目標へ心強い仲間と共に進んでいくことができた。なかなか上手くいかず、ぶつかって、つまづいても再び立ち上がったのは仲間がいたから。悔しいことも嬉しいこともたくさん経験し大きく成長することができた。

3年生の5月、初めて3学年合同で行われた運動会も大きな成長の場となった。特に10人11脚と全員リレーではクラス一丸となり何度も作戦を練り練習に励んだ。お互いを尊敬しながら時には意見をぶつけ合った。そして当日。僕たちは互いに熱いエールを送り合った。勝負は白熱し、応援席は常に熱気で溢れていた。学年種目の10人11脚ではリズムを取る掛け声、仲間を鼓舞し励ます声が校庭に響いた。そして、全身全霊をかけた全員リレー。1人ひとりの想いが込められたバトンが繋がっていく。先輩の運動会を知らない僕たちが後輩に見せた本気の姿だった。

僕たちはこの3年間、挑戦し続けることができた。それはいつも僕たちの味方でどんな時も支えてくれた家族、先生方がいたから。

そして何より1人ではこの景色を見ることはできなかった。

共に挑み続け、共に成長してきた仲間たちにありがとう。

【代表生徒3人目パート】

目まぐるしく変わる社会情勢の中、なんとか開催することができた修学旅行。中学校生活、最初で最後の宿泊学習。私たちは文化の中心地である京都で日本の伝統文化を学んだ。先人の生き方や思想、高い技術に刺激を受け、自分の見聞を広げることができた。また、仲間と長い時間を過ごしたことで、いつもは見ることでできない仲間の素顔や思いを知ることでできた貴重な時間だった。この修学旅行を成功させることができたのは、たくさんの人の温かい思いとたくさんの感謝があったから。

10月、3学年で行う最初で最後の合唱コンクール。経験と時間がない私たちだったが、全てのクラスが難しい曲にチャレンジした。全員が金賞を目指して努力した。本番の合唱は、きっと誰もが忘れられない記憶として刻まれているだろう。ホールに響く美しい声の重なりと力強さ。気迫のこもった圧巻の歌声。その歌声はホールにいた全てのひとたちの心を動かすこともできた。その歌声と想いを、今再びここで共有しよう。学年全員で歌う最初で最後の大地讃頌。

## 合唱：大地讃頌

### 【代表生徒4人目パート】

合唱コンクールが終わると、一気に受験モードへと雰囲気が変わった。自分の進路や成績に悩む中、私たちの心の支えとなったのは仲間の存在だった。「受験は団体戦」この言葉は私たちの胸に大きく響いた。どんなに辛くても、同じ目標に向かって共に戦う仲間がいる。そう思うと心が楽になった。学校で友達と話す時間は、心が安らぐ大切な時間だった。

受験前に友達と送りあったメッセージカード。励ましの言葉を読むと緊張が和らいだ。互いに切磋琢磨し、支えあってきたから、受験という大きな壁を乗り越えることができたのだろう。

花小金井南中学校に入学してから3年間ともに過ごしてきた仲間たち。友達ができるか不安だった入学式が今となっては懐かしい。信頼し、尊敬し合える仲間ができた。時には喧嘩し、ぶつかり合うこともあった。しかし、その度に相手のことをより理解し、絆が深まった。毎日、登下校を共にした友人。苦悩や挫折を共に乗り越えた部活動の仲間。喜びや感動を共に味わったクラスメイト。今日、私たちはそれぞれの道へと旅立っていく。歌おう、今、隣にいる友の顔を浮かべて。

## 合唱：友

### 【代表生徒5人目パート】

中学校生活は、慣れないことや心配なことがたくさんありました。1年生のころは人見知りで友達ができるか心配でした。でも先輩が声をかけてくれて友達ができました。2年生のとき、中学校に入って初めて遠くまで校外学習に行き、学年関係なく楽しむことが出来ました。

大変だったことは運動会です。通常級に混ざって、学年種目やリレーをやるのが大変でした。けれど、通常級の人たちが話しかけてくれて、コミュニケーションを取りながらうまくできてとてもよかったです。

成長したところは、イライラを抑えられるようになったことや、怒りのコントロールが出来るようになったことです。イライラや怒りで授業に参加できないときもありました。とても苦勞をしましたが、7組で生活をしていく中でちゃんと生活を送れるようになりました。

1番の思い出は修学旅行です。中学校で初めてみんなで宿泊をして、見学地を回ったことがとても楽しくて、思い出に残ったからです。

7組での学校生活は、大変でしたが、とても楽しかったです。たくさんの仲間と出会い、楽しい3年間でした。本当にありがとうございました。

### 【代表生徒6人目パート】

私たちはこの三年間、たくさんの壁にぶつかってきた。ときにはくじけそうになるときもあった。それでも、ひとつひとつ諦めずに努力し、乗り越えてきた。それができたのは、近くに支えてくれる人がいたから。栄光も挫折も共にしてきた友人。優しく、ときには厳しく、励ましてくださった先生方。私たちに大きな背中を見せてくれた先輩と私たちの背中を見てついてきてくれた後輩。

そして何より、いつも温かく見守ってくれた家族。

部活の大会に応援に来てくれた。勉強中にそっと隣におにぎりを置いてくれた。辛いとき寄り添って話を聞いてくれた。それなのに、反抗してしまうこともあった。素直に口に出して言えなかったけれど、心の中はいつも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう。

私たちは一人では何もできなかった。ここまでやってくることができたのは、共に頑張る仲間がいたから。応援してくれる人がいたから。

そして今日この日をもって、花小金井南中を卒業していく。四月からは、次の新たな1ページを踏み出す。予想もできないような困難が待っているかもしれない。でも、私たちなら必ず乗り越え、前へ進んでいける。描いていこう。真新しい白紙のページに、色鮮やかな夢を。未来を。

私たちは、絶対に忘れない。輝きに満ちた三年間のすべてを。友よ。広い大空の遥か彼方へ旅立ってゆこう。まぶしい未来への希望を胸に。すべての人々への感謝を込めて。

## 合唱：旅立ちの日に

【代表生徒6人目】「3年間支えてくれて、ありがとうございました」

【全員】「ありがとうございました」